

I 武蔵野市の小中連携の現状及び成果と課題

学力向上やいわゆる「中一ギャップ」等が問題となっている中、本市においては、子どもたちが互いの学校を訪問したり、小中学校の教員が授業を参観し合ったり、情報共有をしたりして、子どもたちに対する継続した指導や支援を意識した連携を行っている。

1 現状について

(1) 全校で実施している取組

- ・小中合同研修会(年2回以上、相互の授業参観を含む)
- ・教務担当者会、生活指導担当者会、進路指導担当者会における情報共有
- ・生徒会役員の生徒による学校説明

(2) 学校ごとに実施している取組について

教員に関すること	・中学校英語科教員による小学校の授業の実施
児童・生徒に関すること	・中学生の希望者による運動会でのボランティア活動 ・中学2年生による小学校での合唱披露及び読み聞かせ ・夏季休業中の吹奏楽部による指導
小学生の中学校訪問	・授業見学や授業体験、部活動見学や体験

(平成27年 5月 現在)

(3) その他

- ・運動会などの中学校行事への案内を各小学校に配布

2 成果と課題について

【成果】

- 全校で授業見学や授業体験が実施されている。
- 小学校と中学校の教員同士の情報交換は、定期的に実施されている。
- 学区の児童に対して生徒会が中心となった、学校生活の紹介活動を実施している。
- 児童の体力・運動能力を高めるために、中学校の体育の教員経験をもつ学習指導員を小学校に配置し、体育の授業を支援している。

【課題】

- 児童・生徒が直接接する機会をつくっている学校は少ない。
- 教員相互の「乗り入れ授業」については、実施している学校が少ない。実施したとしても、定期的な実施とはなっていない。
- 市教育委員会として教員の情報交換の場の設定があるのは、教務担当者会、生活指導担当者会、進路指導担当者会のみであるので、そのような場をさらに多く設定する必要がある。
- 学習指導員を配置しているが、学校ごとに配置しているため小・中学校の学習内容の系統性への配慮や子どもたち一人一人の学習状況の小・中学校間の情報連携が十分とは言えない。

Ⅱ 武蔵野市の児童・生徒の現状とその分析

1 キャリア教育の視点から

今、子どもたちには、将来、社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するための力が求められている。

この視点に立って日々の教育活動を展開することこそが、キャリア教育の実践である。

学校の特色や地域の実情を踏まえつつ、子どもたちの発達の段階にふさわしいキャリア教育を推進・充実させる必要がある。

児童・生徒の日常の学習態度や生活態度は、自分の進路や将来設計に関心・意欲をもつことによって大きな影響を受ける。なぜ、勉強しなくてはいけないのか、今の学習が将来どのように役立つのかということなどについての発見や自覚を効果的に促すことによって、日頃の学習に対する姿勢の改善につながり、そのことが新たな発見やより深い自覚に結び付いていくことで、学習意欲の向上が期待される。

(1) キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査の結果から

国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター 平成24年10月～11月に実施
 <対象> 全国の公立小中学校：6学年の児童：4179名、中学校3学年の生徒：4235名

番号	設問	小学校	中学校
①	友達や家の人の意見を聞くと、その人の考えや気持ちを受け止めようとしている	41.9%	52.1%
②	相手が理解しやすいように、自分の考えや気持ちを整理して伝えようと工夫している	51.6%	41.1%
③	自分の果たすべき役割や分担を考え、周囲の人と力を合わせて行動しようとしている	42.7%	49.0%
④	自分の興味や関心、長所や短所などについて把握し、良いところを伸ばし、悪いところを克服しようとしている	46.8%	49.1%
⑤	自分がすべきことがあるときに、喜怒哀楽の感情に流されず、行動を適切に律して取り組もうとしている	46.5%	28.4%
⑥	不得意なことや苦手なことでも、自ら進んで取り組もうとしている	32.7%	20.6%
⑦	調べたいことがあるとき、自ら進んで資料や情報を集め、必要な情報を取捨選択している	36.4%	33.0%
⑧	何か問題が起きたとき、次に同じような問題が起きないように原因を考えたり、解決方法を工夫したりしている	48.3%	29.8%
⑨	何かをするとき、見通しをもって計画し、評価や改善を加え実行している	36.8%	23.5%
⑩	学ぶことや働くことの意義について考えたり、今学校で学んでいることと自分の将来とのつながりを考えたりしている	33.5%	29.5%
⑪	自分の将来について具体的な目標をたて、現実を考えながらその実現のための方法について考えている	49.7%	32.8%
⑫	自分の将来の目標の実現に向かって具体的に行動したり、その方法を工夫・改善したりしている	46.1%	31.1%

※数値は、肯定的な意見の割合を示す。網掛けは、小学校に比べて、中学校が低い項目。
 なお、本市は抽出調査の対象となっていない。

<分析>

国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センターが全国の公立小学校6年生及び中学校3年生の生徒に行った調査によると、多くの項目で、小学校より中学校のほうが肯定的な考えをもっている生徒の割合が低くなっている。

特に、「学ぶことや働くことの意義について考えたり、今学校で学んでいることと自分の将来とのつながりを考えること」や「自分の将来について目標を立てたり、現実を考え、その実現に向かって行動したりする」意欲が低くなっている。

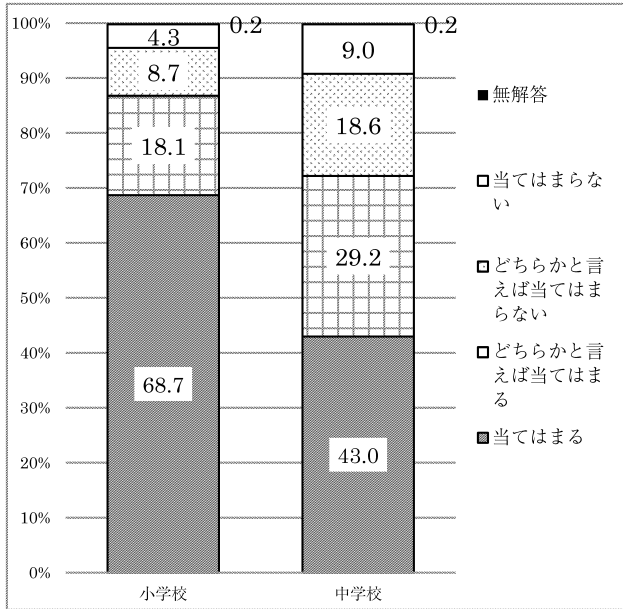
本市においてもその状況に大きな差はないものと推定される。

(2) 平成26年度「全国学力・学習状況調査」結果の内容から

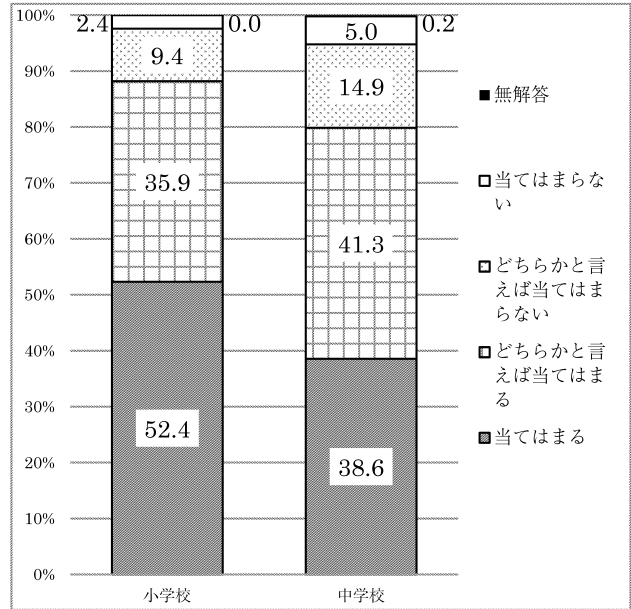
調査によると、「未来に向けての子どもたちの意識」や「地域への関心」の意識は、年度ごとに大きな変化がない傾向が続いている。この傾向は本市においても同様である。

① 「未来に向けて」への子どもたちの意識

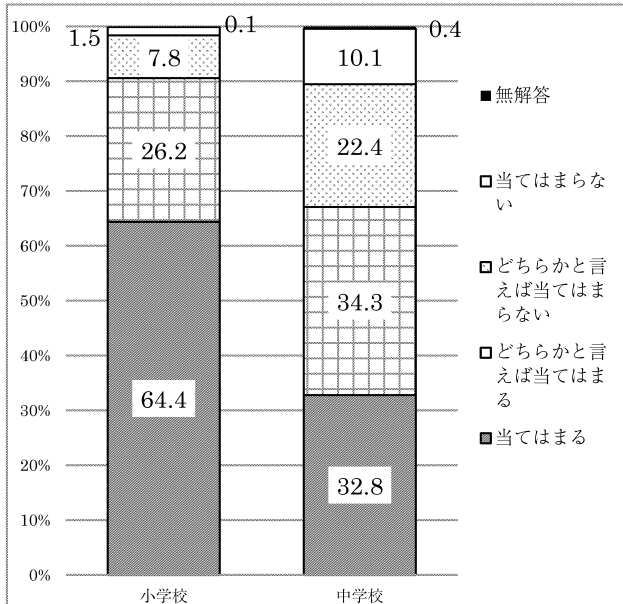
将来の夢や希望をもっていますか。



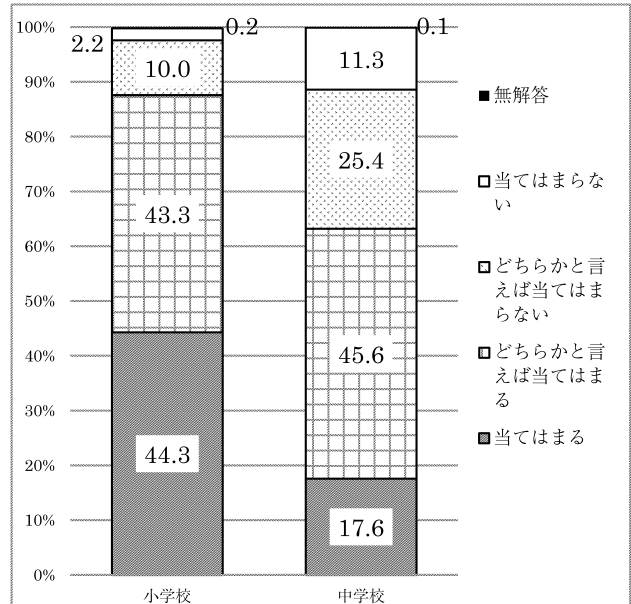
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。



算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。



「総合的な学習の時間」の授業で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役に立つと思いますか。

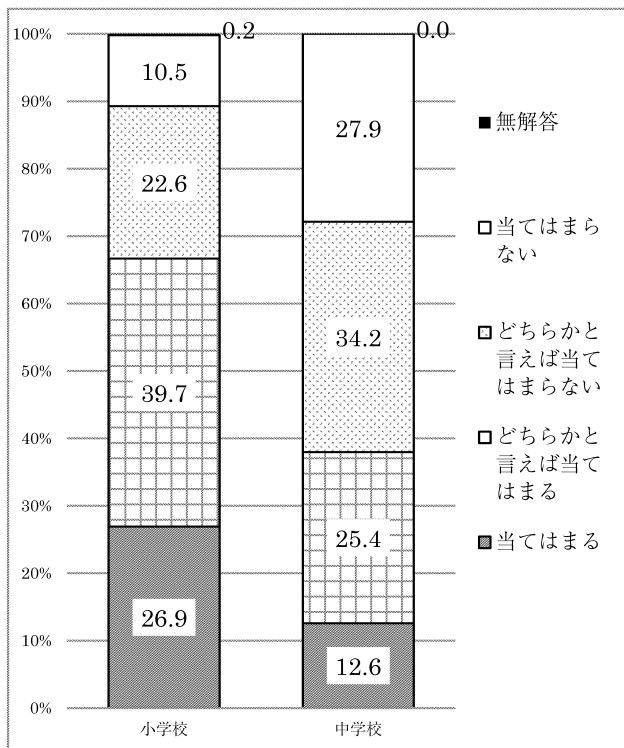


<分析>

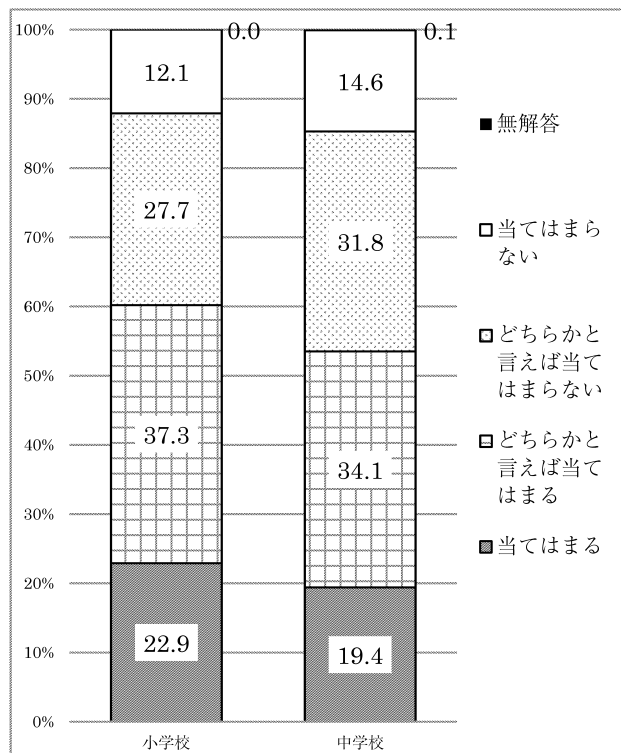
- 「将来の夢や希望をもつこと」について、肯定的に答える子どもの割合が小学校から中学校へと進学すると少なくなる。
- 「国語、算数・数学、総合的な学習の時間の授業で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役に立つ」について肯定的に答える子どもの割合が小学校から中学校へと進学すると少なくなる。

② 「地域」 への子どもたちの意識

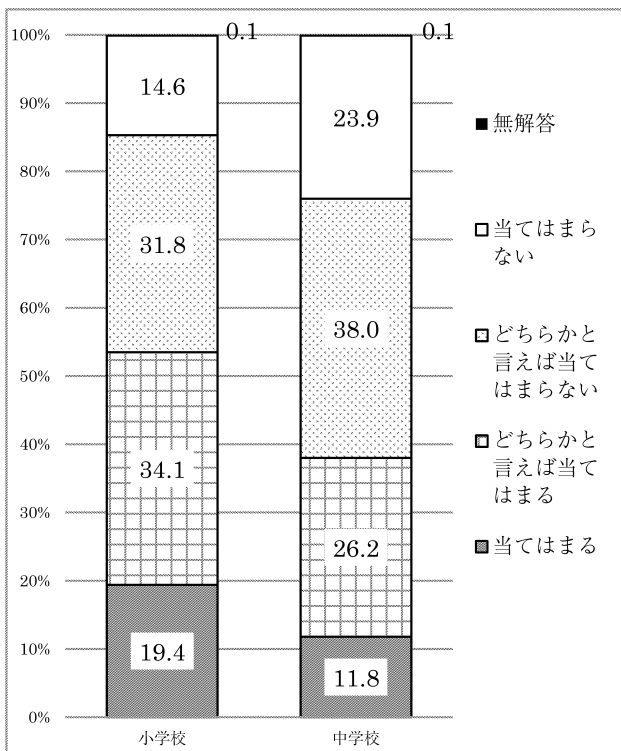
地域の行事に参加していますか



地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか。



地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか。



<分析>

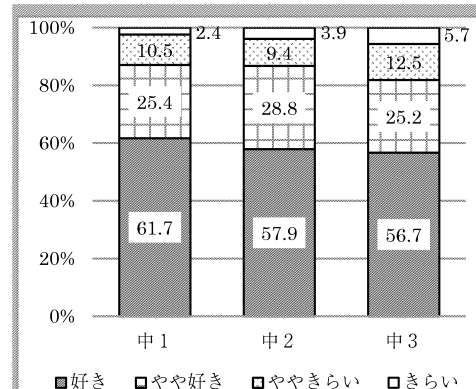
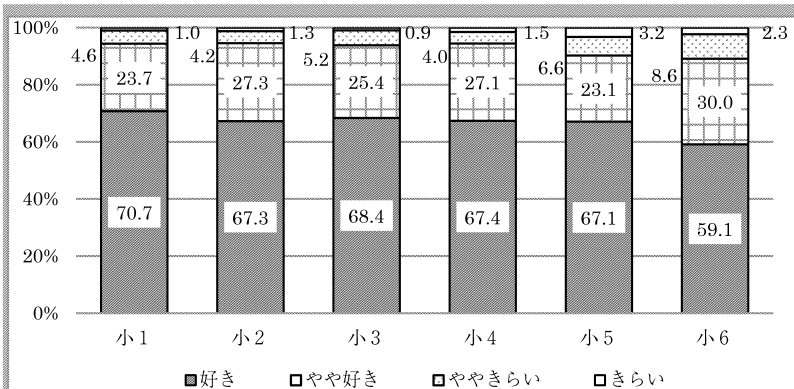
- 「地域の行事への参加」「地域や社会で起こっている出来事への関心」「地域や社会をよくするために何をすべきか考えること」について、小学校から中学校へ進学すると低下する傾向がある。
- 小学校、中学校ともに「当てはまる」と答える子どもたちの割合は、10～20%台となっている。「地域や社会で起こっている問題や出来事への関心」の本市の結果は、全国や東京都と比べて高い傾向にある。(P.45 参照)
- 一方、「地域の行事へ参加しているか」の結果は、小学校、中学校ともに全国の結果の数値と比べて低い状況である。(P.45 参照)

(3) 平成26年度「東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査」結果の内容から

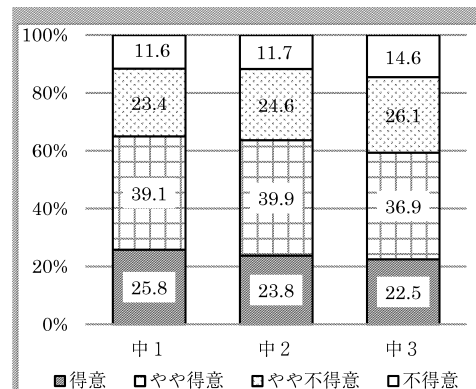
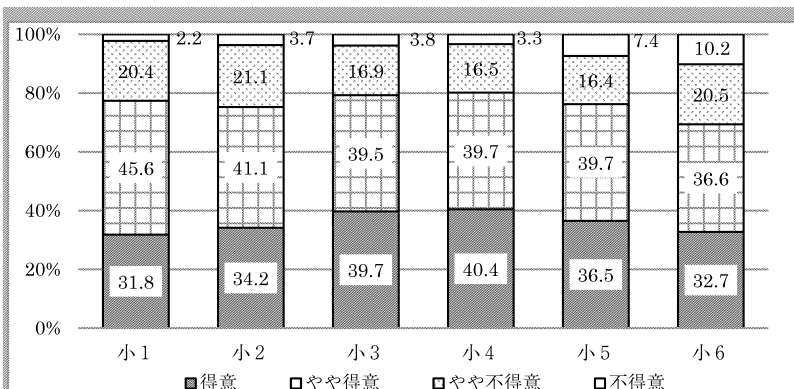
小学校

中学校

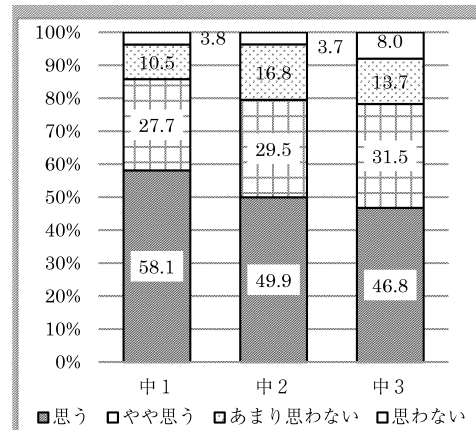
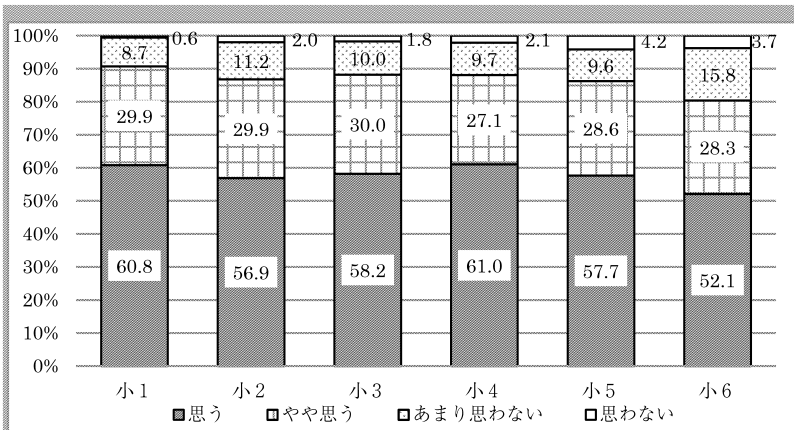
運動は好きですか嫌いですか。



運動は得意ですか不得意ですか。



運動をもっとしたいと思いますか。



<分析>

- 運動の「好き、嫌い」については、概ね85%以上の子どもたちが、「好き」「やや好き」と答えている。
- 「得意、不得意」は、小学校中学年をピークに「得意」と答える子どもたちの割合が小学校5年生から減少していく。一方で、小学校5年生以上は概ね80%の子どもたちが「もっと運動したい」と感じている。
- 「もっと運動したい」は、小学校6年生から中学校1年生へ進学すると高まる。中学校進学で運動部活動の開始が影響を与えていることが想定される。
- 体の成長とともに「得意、不得意」を感じ、体育の授業で楽しさを感じにくくなることが想定される。

2 中1ギャップへの対応の視点から

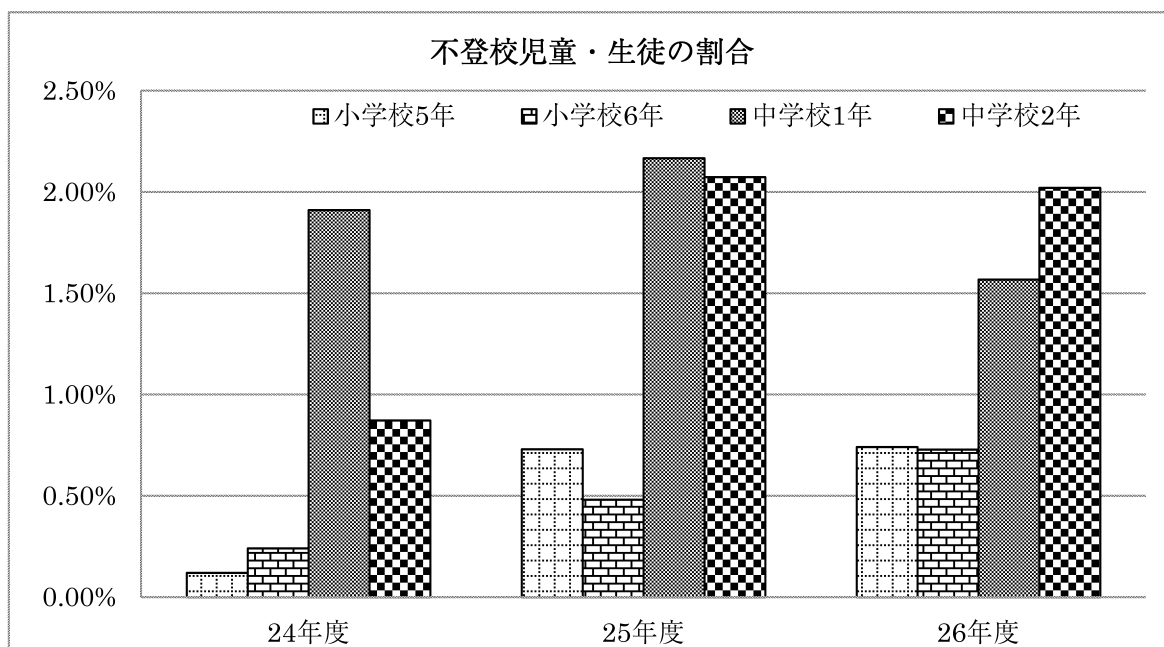
「ギャップ」という表現が安易に用いられていることで、小6から中1に至る過程に大きな「壁」や「ハードル」が存在し、それが問題を引き起こしているかのようなイメージを抱きがちである。しかし、多くの問題が顕在化するのは中学校段階からだとしても、実は小学校段階から問題をはらんでいる場合が少なくない。家庭や地域の教育力の低下もあって、小学校が抱える問題は増えてきたと言える。その結果、小学校段階で予兆が見えていたり顕在化し始めていたりする問題であっても、対応できなかつたり解決できなかつたりという「積み残し」や「先送り」が存在していることも少なくない。

一方、中学校でも、そうした小学校の状況を十分に把握しないまま、あたかも中1をスタートラインにできるかのようなイメージを脱し切れていないところがある。中学校区単位で連携を進めていかなければ、中学校の課題が解消することはない。小中連携はもとより、校区内の小小連携も含めて不登校やいじめという共通の課題に取り組むことで、成果をあげている事例もある。

(1) 不登校について

① 武蔵野市における不登校児童・生徒の割合について

(児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査より引用)



	小学校5年生	小学校6年生	中学校1年生	中学校2年生
24年度	0.12%	0.24%	1.91%	0.87%
25年度	0.73%	0.48%	2.17%	2.07%
26年度	0.74%	0.73%	1.57%	2.02%

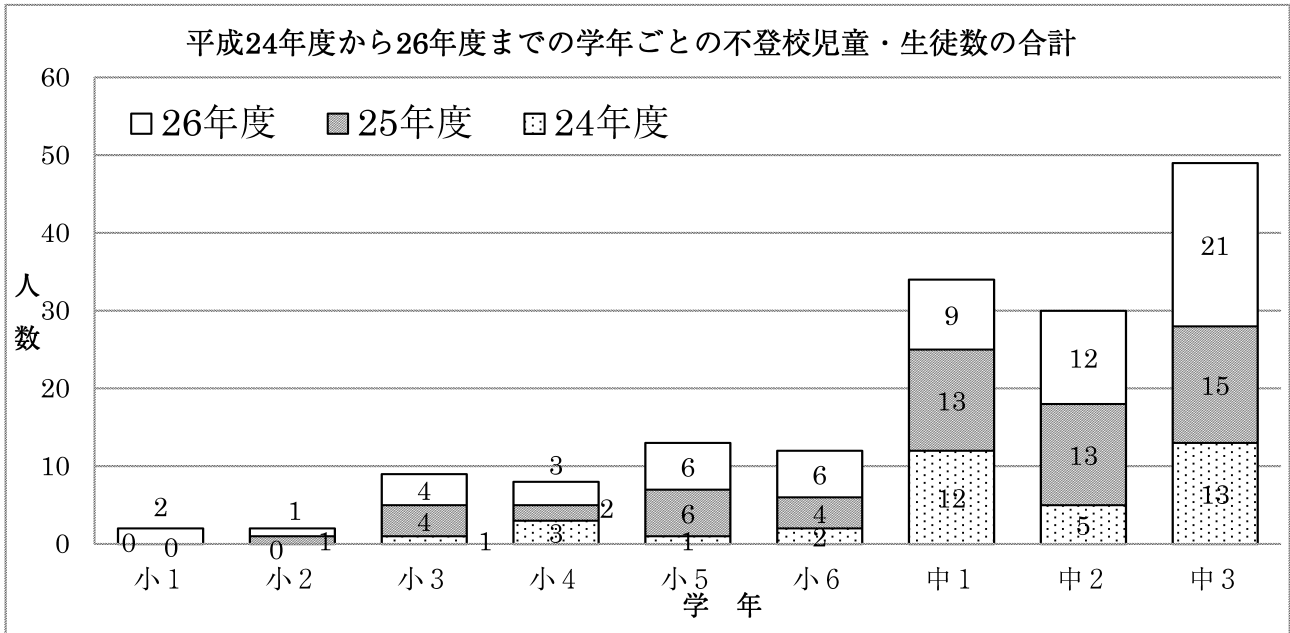
※網掛けは、小学校5年生から中学校1年生へと進学していく場合の割合の変化である。

<分析>

- 小学校と中学校を比べて、中学校へ進学すると不登校生徒の割合が高くなる。
- 小学校は、不登校児童の割合が年々増加傾向にある。

② 武蔵野市における不登校の児童・生徒数について

(児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査より引用)



<分析>

○平成24年度から平成26年度までの3年間の不登校児童・生徒数の合計は、24年度37名、25年度58名、26年度64名と不登校の児童・生徒数が増加傾向にある。

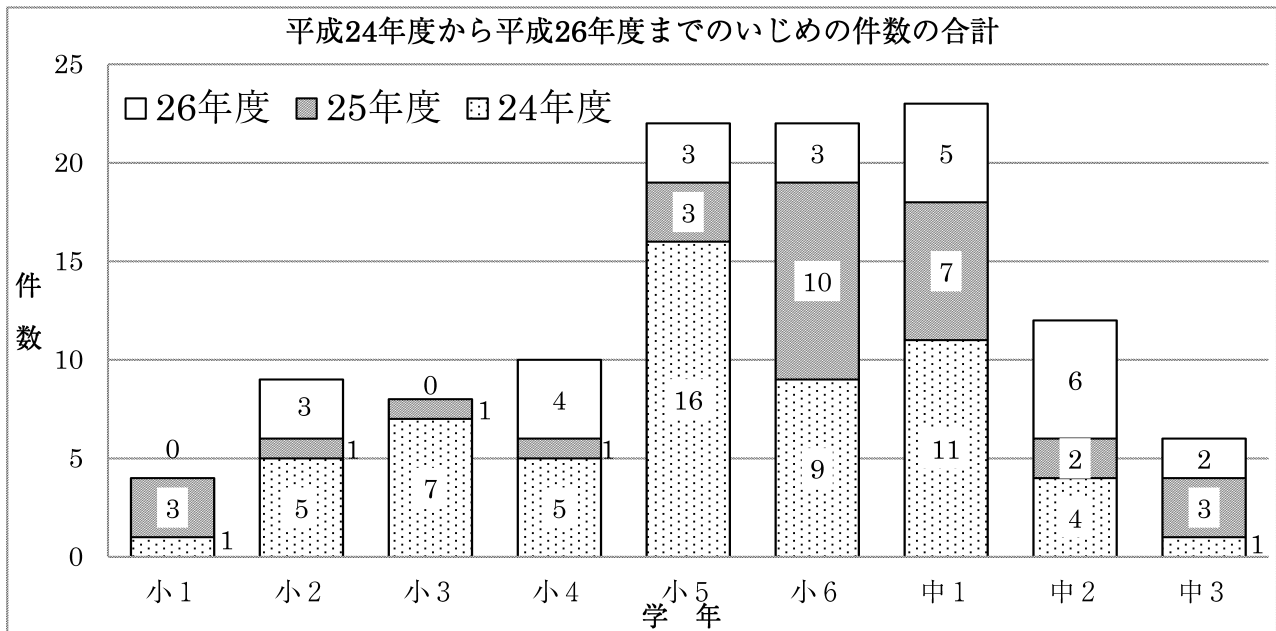
○小学校6年生から中学校1年生に進学する段階で、不登校の生徒数が大幅に増加する。

○学年が上がるにつれて不登校の児童・生徒数が増える傾向が見られる。

(2) いじめについて

① 武蔵野市におけるいじめの件数について

(児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査より引用)



<分析>

○小学校4年生から小学校5年生になるといじめの件数がほぼ倍増する。

○中学校1年生から中学校2年生になるといじめの件数がほぼ半減する。

○年度ごとに件数にばらつきがあるが、3年間の合計から見ると、小学校5年生から中学校1年生にかけていじめの件数のピークが現れる。

3 市立中学校への進学状況の視点から

東京都教育委員会が公表した「平成26年度公立学校統計調査報告書」の「公立学校卒業生(平成25年度)の進路状況調査編」によると、武蔵野市の小学校卒業生の進学状況は、都内の公立(国立除く)は83.4%、武蔵野市は、71.2%となった。公立中学校(都立含む)の進学率は、都内で10番目に低い数値となった。なお、市立中学校への進学率だけで見ると都内で8番目に低い。これは、保護者の考え方にもよるところが大きい。小中連携を一層進めるなど中学校教育の魅力をさらに高めていく必要がある。

(1) 東京都内中学校進学者に占める公立中学校(国立除く)進学率の推移と地区の進学率について

年度別			区市郡島しよ部別(25年度)	
年度	東京都	武蔵野市	区部	79.2%
22	82.9%	71.3%	市部	90.2%
23	82.7%	75.5%	郡部	96.0%
24	83.0%	72.2%	島しよ部	100.0%
25	83.4%	71.2%	武蔵野市	71.2%

<分析>

- 平成22年度から25年度までの4年間の東京都全体の平均進学率は、約80%となっている。
- 平成25年度の区市郡島しよ別進学率を見ると武蔵野市が所属する市部は90%を超えている。

(2) 都内中学校進学者に占める公立中学校進学率の低さの上位の自治体について

「公立学校卒業生(平成25年度)の進路状況調査編」より抜粋

		公立進学率 (国立・私立除く)	都内中学校 進学者数(人)	公立(都立 含む) (人)			都外中学校 進学者数等(人)	卒業生数 (人)
				国立 (人)	私立 (人)	国立 (人)		
1	千代田区	59.6%	401	239	6	156	26	427
2	文京区	60.0%	1129	677	15	437	19	1148
3	港区	62.8%	995	625	12	358	66	1061
4	中央区	64.2%	715	459	5	251	38	753
5	世田谷区	67.5%	5184	3499	56	1629	155	5339
6	目黒区	68.0%	1407	957	17	433	59	1466
7	渋谷区	68.9%	846	583	12	251	16	862
8	新宿区	70.4%	1322	931	7	384	28	1350
9	杉並区	70.7%	3046	2153	29	864	34	3080
10	武蔵野市	71.2%	832	592	6	234	9	841
11	豊島区	72.6%	1223	888	4	331	14	1237
12	中野区	74.8%	1496	1119	18	359	20	1516
13	台東区	75.9%	1029	781	1	247	22	1051
14	品川区	78.2%	2181	1705	6	470	56	2237
15	北区	78.4%	1958	1536	12	410	28	1986
16	江東区	78.7%	3350	2637	19	694	54	3404
17	大田区	79.5%	4615	3668	20	927	88	4703
18	調布市	81.9%	1649	1350	8	291	19	1668
19	狛江市	82.2%	528	434	1	93	11	539
20	荒川区	83.0%	1314	1090	5	219	16	1330
21	練馬区	83.0%	5713	4740	33	940	79	5792
22	三鷹市	83.1%	1293	1075	9	209	14	1307

<分析>

- 東京都の平均の公立進学率より、本市の進学率は低くなる。
- 「市」の中では、最も低い公立中学校への進学率となっている。